

明治末多賀郡の海水浴場

〔漢字・仮名、読点の表記は原文のまま。ルビは外したが、一部に残した。太文字は大活字、□は判読できなかった文字。「」は編者註〕

○多賀の海水浴場(上)

明治41年7月3日付『いはらき』新聞

多賀郡は南水木濱より北は岩城境の平潟港まで海岸一帯白砂青松延びて山河の景致之れに加はり風光の明媚却つて湘南の地を凌ぎ、海浪穏かに瀬は浅くして危険の虞殆となく朝夕と日中との温度大磯鎌倉の如く劇變を見ず人情淳朴、物價比較的廉に、山海の珍味座ながらにして賞し得るより栃木群馬方面の人々は勿論都人士の涼を趁^かふて來る者逐年その多きを加へ昨年の統計を見るに

地名 旅館 浴客數 浴客府縣別
河原子 八 六六七五 栃木 三三三六
助川 三 四九四 群馬 一九三六

高萩	六	三二六	東京	一一二七
平潟	三	二九四	茨城	一〇五八
大津	三	二二六	埼玉	五四六
川尻	四	一八五	福島	四二〇
水木	五	一四七	千葉	五六
磯原	六	一三五	神奈川	一二
会瀬	二	一一七	静岡	五
鮎川	三	一〇二	宮城	三
			長野	二
			新潟	一
合計		八七〇一	合計	八七〇一

十ヶ所四十五の旅館に八千七百の浴客を容れ□次第なるが此の外素人家に宿借したる者も少なからざるべし

△水木 郡の最南端に位し大壘驛より僅々十二丁、南は久慈濱に堺し北は森山、大沼を隔て河原子町に隣り戸數三四五十、海岸に接して風光愛すべく泉ヶ森、泉ヶ池、田樂原等此の地の名所なり、旅館には樓前十歩にして水浴を爲し得べき三層樓の濱屋初め清水館、萩屋、

萩野屋、井幡等あり、水戸より大甕まで僅に四十分に達す

△河原子 下孫驛より東に十町の海岸にある町にして景勝と漁業とを以て古くより名を知られ、殊に海水浴避暑地としては享保年間即ち今より二百年前より其名遠近に傳はり居たるが、海岸線開通以來頓に繁盛を見懸下に於ては三濱「磯崎・平磯・那珂湊」と並ひ稱せらるゝ所となれり、此の地海岸に岩

礁多くして恰も屏風を建て列ねたるが如く海水浴には最も安全なり、名所には烏帽子岩、大島、米島、北島、向島、二ツ島、鶴ヶ鼻等あり、又泉川の古蹟、諏訪の水穴、大久保の風穴等も一度は探るの價値あり、旅館には真砂屋、岩崎樓、泉屋、永野屋、大谷館、樂遊樓、見崎屋、豊業樓等あり

△鮎川 下孫驛より約十五丁の一部落にして風景に富み殊に此所の海水浴場に於ては石を焼きて沸したる海水即ち焼石湯又は石の湯と稱するもの□□□しめ一般の冷症痔疾等に特效ありとて古くより名あり旅館には海

風館、中屋、河合屋等あり

△助川 助川停車場より僅々二丁にして海水浴場に達するを得、海濱清潔に風光明媚なるを以て縉紳の別荘多く旅館には東晝館、眺洋館、皆川屋等あり、附近の名所には陣屋跡、八幡清水、助川風穴等あり、停車場の西十丁にして陸前濱街道の助川宿に達し更に二里十丁にして日立鑛山に達するを得べし

△會瀬^{あふせ} 助川驛より十二丁又山海の風景に富たる一部落にして旅館には濱屋、種荷屋の二軒あり

○多賀の海水浴場(下)

明治41年7月4日付『いはらき』新聞

十ヶ所の内前號に五ヶ所を報じたるが猶

△川尻 は郡の中央に位し海濱に突出せし岬角上にある豊浦町の内に屬し川尻驛より廿二人車賃十二錢にて達す風光佳絶、水族の物産に富みし有名の漁業地にして商業古くより開け陸前濱街道筋屈指の名驛たり、岬角

の盡頭清流の海に朝する邊蒼石兀然屹そはたち丘上老木森々たる所に蠶飼神社ありて眺望を恣まにするを得べく長松一帯延びて海に達する松ヶ崎、雙眼兀として立つ二見の灣等一眸の中に収め得べし其の他名所としては川尻八景を初め御殿山と稱する義公別館の趾、法鷲院等、旅館には本叶屋、泉屋、高砂屋、橋屋等あり

△高萩　は戸數千二百を有する郡内第一の松原町に屬し高萩、安良川相接して市街地を爲し郡役所、警察署、稅務署、小林區署、裁判所出張所、郵便局等の官衙あり銀行あり會社あり製鹽所あり炭坑ありて商工の業繁盛の地、停車場より海岸迄僅に五六丁青松一帯林を作すの間を過ぎて海濱に出づれば一面白沙延びて青松連なること遠く、山色又遠くより迫り來つて自然に山水の美を成し汪洋たる大海碧波渺茫水天と親み風光眞に誇りと爲すに足り、名所には山王山、八幡神社、安良川城趾、岩城氏假館、稻村山等、旅館には松風館、多賀館、三松館、朝日館、松陽館及び高戸の蓬萊館あり就中蓬萊館最も景色に富む

△磯原　は北中鄉村に屬し磯原驛の前が直ぐ人家續にして海岸の天妃山迄五丁、天妃山は大北川の河口にありて、漠々たる沙土の間に兀立し山上老松盤回陰を爲すの所に天妃祠建ち風光秀絶多く儔たぐひを見ず其中腹に山海館ありて避暑客を迎ひ北五六丁にして二ツ島の名所あり、又停車場の北に夢窓國師窟と稱する百八の窟あり、旅館には山海館の外小松屋、東洋館、藤屋、明賀屋、松の井、皆宜亭あり、磯原八景とは即ち天妃山の碧霞、多賀海の觀月、太鼓濤の潮響、神磯の碎雪、大北川の漁火、嘴沙の睡驅、□□の夜船、双岩ふたつじま島の岸波を云ふ

△大津　郡の北端に位し関本驛より十七丁を距海岸の一漁市にして戸數千百、人口五千六百に達し、沿岸廣く灣入して常北海に於ける漁港を爲し船舶常に灣内に輻輳し貨物の集散、人馬の往來年を逐ふて繁きを加はへ漁業益々開けて東海屈指と稱せらるゝの地、眼界一面に開け白沙遠く連りて景象雄大、海波靜穩にして水浴に適し佐波山最も眺望に富み、此の地にも亦八勝あり、曰く、唐歸山の松籟、多賀海の朝暎、平潟灣の連橋、天妃山の

廻瀾、勿來關の春曉、神峯山の残霞、佛具山の□黛、花園山の晴雪とす町の東方五六丁にして五浦の勝區あり、風光の美言語に絶せるの所有名なる美術院あり、此の邊海岸貝藻の化石多く、旅館には八勝園、金澤旅館、東海樓等あり

△平瀉　關本驛より十七丁、天津港の北にある多賀郡東北端の一市街にして一路直に岩城界に接し右に薬師左に八幡の兩山巖頭高く聳えて鳥の羽翼を張りしが如く屹然灣口を扼し海水を懷きて小港を爲し沿岸灣を繞りて人家櫛比し樓舖軒を連ねて商業繁盛なるが港内袋の如くにして水深きに依り船舶の碇泊常に絶えず、黒浦洞、鷹岡八幡、薬師堂、霽雲閣等の名所あり、旅館の重なるものを住吉屋、保養館の二となす(完)